

学校安全・防災だより

令和7年7月22日（火）

保健体育安全課発行【第4号】



台風や大雨に備えましょう

— 命を守るために早めの行動を —

夏も本番になり、大気の不安定な日が多くなってきています。梅雨前線が停滞すると、線状降水帯*が発生し、大雨となって、橋が崩落するなどの被害が毎年のように発生しています。

各学校においては、気象情報を早めに入手し、命を守るための行動の判断材料としてください。

※線状降水帯：次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50～300km 程度、幅 20～50km 程度の強い降水をとまなう雨域。
（参考：気象庁 HP）

気象に関する豆知識

Q. 降水量1ミリの雨ってどれくらいの量？

A. 降水量は、降った雨がどこにも流れ去らずにそのまま溜まった場合の水の深さで、ミリメートル

で表しています。例えば、「100 ミリの降水量」は、降った雨がそのまま溜まった場合、水深10cm となるということです。

1平方メートル（1m×1m）の箱に1ミリの雨が降ったときに溜まる水の量は1ℓにもなります。

周りより低い土地には周囲から雨水が流れ込み、降った雨以上に水かさが増すことがあるので、周囲の地形も把握しておくことが重要です。



引き続き熱中症に要注意！



【梅雨明け後に熱中症が多く発生します！】

平年より6日早く梅雨が明けました。梅雨明けの蒸し暑く、急に気温が高くなる時期に、熱中症による救急搬送者数や死亡者数が急増しています。十分な睡眠とバランスの良い食事に加え、水分・塩分補給を忘れずに行いましょう！

《熱中症の研修に役立つ資料の紹介》：JSC 映像資料

○熱中症を予防しよう — 知って防ごう熱中症 —

「熱中症発生のメカニズム」、「発生してしまった場合の処置の留意点」、「熱中症予防のための5つの原則」、「学校や競技団体が実践している取組事例」等について、分かりやすく解説しています。

<https://www.jpnsport.go.jp/anzen/tabid/1765/Default.aspx>



「地域と連携した防災活動」の紹介 — 成田中生が避難所開設・運営訓練 —

7月4日（金）に富谷市立成田中学校で、地域や企業、異校種と連携した防災活動が行われました。避難訓練実施後、中学校区内の小学6年生と中学1、2年生は防災ブース学習に取り組みました。防災ブースには、町内会、富谷市社会福祉協議会、介護福祉サービス事業所、大塚製菓、防災手話講師、富谷ユネスコ協会など9つもの協力団体が参加し、児童生徒はそれぞれの学習ブースで防災に関する学びを深めていました。その裏で3年生は避難所設営の準備を行い、午後からは避難所運営に臨みました。

特徴的なのは生徒が避難所運営本部を担うところで、受付からトリアージの判断、避難所となる教室への誘導に至るまで、すべて生徒が判断し、行動に移していました。教員は見守る立場に徹していました。コロナ禍で1年間実施できなかった時期を乗り越え、今回で10回目を数えた地域との防災活動。地域の協力者の中には、中学生の時期にこの活動を経験したOGも参加しており、地域と学校が一体となって子供たちの防災教育を支えている様子が大変印象的でした。



【地域住民を受け入れ避難所に誘導】



【ボードで情報を集約】



【OGも参加】



【地域の方に参加を呼び掛けるポスター】



【発電機を動かして扇風機を回す体験】



【災害時に手動で取り出せる自販機体験】

圏域別ネットワーク会議が開催されました

— 子供たちの命を守る地域ぐるみでの学校安全の推進のために —

各圏域（仙台・北部・大河原・東部・気仙沼）において、教育事務所が主催する「安全教育総合推進ネットワーク会議」が以下の日程で開催されました。

圏域別に、市町村防災担当部局や警察署、消防署、教育委員会、安全担当主幹教諭等が参加し、地域ぐるみでの学校安全の推進に向けて、情報共有を行いました。



【期日】	仙台圏域	6月9日（月）
	北部圏域	6月18日（水）
	大河原圏域	6月24日（火）
	東部圏域	6月27日（金）
	気仙沼圏域	6月30日（月）

